

2 3 心 燃

4 ～Act to the next generation～

7
8 理事長 大久保伸一

9
10 私たちの心にある自らを突き動かす感情を「心燃（しんねん）」と呼ぼう

11
12 2020年、突如として現れた新型コロナウイルス感染症の脅威はますます身近に迫り、
13 人々の不安を煽り続けています。社会は人との接触を減らそうとする中、この青年会議所の
14 活動は果たして不要なものなののでしょうか。私たちの先人は「来るべき時代への羅針となら
15 ん」という高い志の下、ここ亀岡青年会議所を立ち上げ、以後41年に渡り亀岡の未来を創
16 る運動を繋いでこられました。現在、先行き不透明と言われる状況の中、これまでも課題と
17 されてきた様々な諸問題に加え、新型コロナウイルスによる社会構造と生活様式の変容に
18 伴う人々の価値観の変化により、新たな課題も生まれています。今まさに時代の転換期にあ
19 るこの時に、私たちは創始に掲げられた不変の信念に背を向けることができるでしょうか。
20 山積みの地域課題を置き去りにし、次代に委ねることができるでしょうか。混沌とした時代
21 には、「明るい豊かな社会」の実現を理念とする私たちの運動が必要です。明日が見えない
22 時代ならば、希望を引き寄せる社会の実現に向けて、燦る心燃を解き放ち、自らの行動に心
23 を燃やそう。

24
25 地域課題の解決を基軸とし、自己研鑽と人との繋がりを育む青年会議所の活動は、多岐に
26 渡り、そこから得られる経験は、私たちに刺激を与え、自身に成長をもたらします。しかし、
27 青年会議所として果たすべき、まちの成長や発展に対し、今の私たちの活動はどれほどの影
28 響を与えることができているのでしょうか。そして、私たちはそれを実感することができる
29 のでしょうか。人は、家族や友人、自身の社業に関係する人々といった、まずは身近な人の
30 幸せを願うものです。そんな幸せな日々の営みが、共生の社会の中にあるならば、人々が手
31 を取り合い、互いの幸せを実現する社会が必要です。市民の価値観に寄り添い、共感を誘う
32 明瞭な運動展開によって、青年会議所と市民の他を想う心を共鳴させ、成果を実感する共
33 験に心を燃やそう。

35 青年会議所は、人を惹きつける熱量に溢れていました。社会奉仕とは無縁だった私でさえ、
36 今日まで活動に打ち込めたのは、組織や地域のことを真剣に考え、行動するメンバーの情熱
37 に感化されたからです。自分がどれだけこの組織の力になれるのか、入会当初は期待と不安
38 を抱えながらも、ただひたすら目の前の活動に向き合いました。そんな日々は、私に多くの
39 感動を与えてくれました。情熱的なメンバーとの出逢いには期待感や憧れを抱き、そんなメ
40 ンバーとの語らいには共感と気づきを得、共に費やした時間と労力からは充実感や達成感
41 を味わい、気づけば青年会議所という空間に魅了されていました。単年度制である青年会議
42 所は言わば、この積み重ねなのかもしれません。年度ごとに変わる環境において、あらゆる
43 機会から得られる経験が自己の能力と感性を磨き上げ、それが自信となり、まちづくりを実
44 践する中で、活動を共にしたメンバー、手を携えていただいた協力者や市民との繋がりに、
45 感謝と青年会議所への誇りを感じることができました。「明るい豊かな社会」の実現という
46 壮大な理念に向かい活動を続ける道のりは、決して容易いものではないかもしれません。し
47 かし、青年会議所で巡り合った私たちの言葉や行動から伝わる熱量は、人の心を動かす力を
48 確かに持っています。この青年会議所という環境に根付く、思考と実践を積み重ね自ら行動
49 する人財を生み出す運動に心を燃やそう。

50

51 心燃が行動を呼び起こし 成果が行動を持続させる

52

53 課題解決を通じ、個人と組織、組織と地域が繋がる成功体験を積み重ね、心燃を結集させ
54 た一点突破の運動を、市民の共感を集める全面展開の運動へと広げよう

55

56 一本質を共有し成果へ導く組織運営―

57 私たちが構築する事業が、人々の共感を集めるためには、まずはメンバーの期待感を得る
58 ことが必要です。事業実施に至るまでの過程に、オープンな環境を整備し、メンバーの活動
59 への動機を周囲へと伝播させ、目的意識を共有した組織の一体感を強めます。また、資質向
60 上や見識を広げる渉外事業への参加意識を高め、メンバーの成長を組織の成果に活かして
61 参りましょう。

62

63 一まちへの想いを繋げる情報共有―

64 私たちが様々な課題解決に取り組む上で、その成果を高めるためには、青年会議所とこの
65 まちに関わる人々との関係を強めることや、更に生み出すことが必要です。互いに手を携え、
66 まちへの想いを共有したパートナーとの関係を構築することで、新たな視点が加わり、潜在
67 的な課題の発見や、より効果的な解決策を見出すことができます。青年会議所が持つ情報発
68 信ツールを活性化させ、オンラインとオフラインの強みを活かし、パートナーとの良好な繋
69 がりを広げて参りましょう。

70

71 ー新たな価値を共創する絆の構築ー

72 青年会議所運動の原動力は、私たちメンバーの繋がりであり、互いの自由な発想を融合さ
73 せることで運動は構築されます。人々の価値観の変化に伴い、成果を生み出し続ける事業を
74 構築するためには、私たちの組織や運動の在り方にも、変化に対応し価値を生み出すイノベ
75 ーションが必要です。イノベーションは、メンバーが持つ個々の見識と互いの協力によって
76 起こります。多様な価値観を持つメンバーを互いの共感で繋ぎ、尊重し合うことで、個性を
77 発揮できる信頼関係を構築して参りましょう。

78

79 ー愛着を深める地域風土の体感ー

80 成果をまちに広げるためには、地域の特性を認識することが必要です。生活様式の変容に
81 伴い、これまで賑わいを見せた亀岡への旅行者数が減少しています。一方で、制限された生
82 活により、心のゆとりを求めた非日常的な体験への人々の願望が高まっています。また、外
83 出に関しては、安心や安全を重要視し、近隣への移動にとどまる傾向があることから、これ
84 まで市外に向けられていた観光ターゲットを市民に向け、観光回復への戦略の立て直しが
85 必要です。亀岡は地域によって育まれた歴史や伝統、自然や文化といったオリジナリティに
86 溢れています。市民のまちへの愛着を深める地元観光を推進することで、まちの発信力を高
87 めて参りましょう。

88

89 青年は未来を描き 青年が未来を創る

90

91 未来は私たちの手に委ねられています。かつての青年の弛まぬ努力によって、切り拓かれ
92 た今日までの軌跡があるように、同じ青年として私たちも、その力を秘めています。たとえ
93 大きな一歩ではなかったとしても、見える景色が変わることによって、次の一歩を踏み出す
94 理由が見つかります。一つひとつの成果を積み重ね、私たちの行動が、この組織やまちの未
95 来にとって、確実に影響を与えるものであることを実感しよう。さあ湧き上がる心燃のまま
96 に、青年会議所の運動と自らの可能性に心を燃やそう。

97

98

99

100

101 一般社団法人 亀岡青年会議所 2022年度 基本方針

102

103 1. 期待を寄せる運動構築

104 2. 貢献心を繋ぐ情報共有

105 3. 信頼で繋がる共創の輪

106 4. 愛着を深める魅力発信